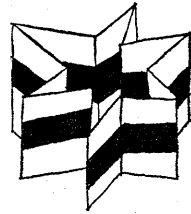


## 花と子ども



飯沼佳子

“花”をテーマに文を書く様にといいお便りを載いた時これならば書けそうだと気楽な気持ちでひきうけましたが、書き出してみますとあれもこれもと思いはせ何をどう書いたらよいか迷ってしまいます。

子どもの頃の花の思い出と言えば、春、見渡す限りの田をうめつくしたレンゲ草のうす赤紫の花です。その中にすわりこみ両手いっぱい花を摘んだことも今となれば話しの中だけのことになってしまいました。と言ってもただか三十年前位前のことです。昔、なに気なかったこんな風景も、今では得

がたい事となってしまいました。私の住む信州の穂高は最近観光地として有名ですが、観光のため、極く一部の田んぼにレンゲ草が植えられたと言うことです。その昔は田を肥するためのレンゲ草だったのが今や見る為だけのものになってしまったかと思えますと根なし草の様なはかなさを感じます。

ここ信州は春の訪れが遅れます。四月も中頃にまず梅、続いて杏、間をおかず桜、桃、りんごと次々咲きそろう、字のごとく百花りょう乱の時です。四月の終りから五月の始めにかけて、野の花も一斉に咲き出します。

私の園のまわりは、まだ幸いなことに野原や小川が残っています。又、この頃では果樹園なども大規模にやらないと採算がとれず、あちこちで荒畑が目立ち始めました。そんな荒地は子ども達の格好な遊び場になります。畑が荒れ出しますと、これは土地によって違うでしょうが、この辺ではタンポポが待っていましたとばかりはびこり始めます。で、黄色のじゅうたんをしきつめた様なタンポポの群生があ

ちこちに出現し、目を見はる風景です。一昨年迄、秋口に甘い香りを漂よわせていた近くのブドウ畑も昨春はタンポポ畑にかわってしまいました。が、子ども達はタンポポ摘みをたんのうしました。

それから、フジツル、ニセアカシアが繁茂します。フジツルは花はうす紫で藤の花に似てきれいですが、その繁殖力は恐るべきものです。これが一旦はびこり始めますと、木、生垣、フェンスと所かまわず巻きつき、大木もこれにからまれ枯れる程です。数年前迄は園の雑木林の下草としてひっそりしていたフジツルも、まわりの木々がたおされ、畑が荒れ出すと同時に力をつけあたり一面に大きな葉をひろげて来ました。これが茂り出した一年目は幼稚園で飼っている山羊のえさに好都合と喜んで、冬用迄と思い園全体の子どもが出て葉を集めました、乾燥かしましたらちよっとさわっただけでバラバラとくずれてしまい使いものにならずじまいでした。そして次の年からは更に勢いを増し、大木にも巻きつき始めました。やぎもうさぎもこの葉を赤り好ま

ず、始めは好感をもっていたこの葉ですが、最近は恐怖さえ感じ、カマを持って木にからまったつるを切って歩いています。

ニセアカシアもこれに似たりよったりで強い生命力を持っていて気付くとアカシヤ林です。

それに較べますとすみれなどはその姿の通りひっそりしていて、群をなして咲くということはまあありません。他に、ほたるぶくろ、野のあやめ、つゆ草、ふでりんどう、へびいちご、その他様々の草花が折々にやさしく咲きます。花の好きな子がどのクラスにも必ずいます。屋外に花のある限りどの保育室も小さな野の花で飾られています。

園を訪れた方に、「ここではこういう野の花があっていいですね。」と言われ、今では得がたい環境であることに気付かされました。大輪に色鮮やかに咲く花も勿論美しく人の心をひきつけますが、道端に、土手に、ひっそり小さく咲いた花を愛する子ども心に見習い、又、そういった心が損われない様大切にしたいと思えます。(長野県・松本青い鳥幼稚園)